

日本福祉大学高塩南内学校 同窓会 2018-5-25  
会長 目地 哲也 様

F052-339-0201

合計3枚

光と風が樹木の葉を葉っぱに踊らせています。  
皆様お之気で"他人向けの色"お色を精一杯  
されておられること"は。 夫の最終「鼻の音」  
のは 教子と違"です。

皆と代表に、1足早く「園遊会」に  
招かれ参加しました。2017年秋のことです。  
この日記は北丈の境先生からの協会誌に  
書いて下すました。私個人も、母校の同窓会誌に  
書く、(どんな所から、どのような方法で"選ばれ、  
その日の服装は、..."など)報告致しました。

これから、同窓生の方々に"お招き"か  
ありますように お祈りして頂きます。  
私の毎日は かつて背骨を千か所痛み、

hip joint を骨折(手術を拒否)「行方」の傍で  
生活して頂きます。 其ために 外出に制限され、  
(皆様の 協会 (ten) と思ふた) 故に、  
「皆、お之気で、」と心の中で叫んで頂きます。  
京都の教子と違"です。

同窓会誌のコーナーを 担当下す。  
その日の近頃の祈り、 次に行かれる方に  
お招きのご挨拶を、 鈴木 明子

巻頭言

秋の園遊会へのお招き

2018年3月  
P. 4, 5

鈴木 明子 (昭30 教育)

2017年秋に一本の電話が入った。「晴天の霹靂」と驚いた。

「鈴木先生に秋の園遊会のお招きが準備中で、順調ならばこの秋、無理ならば春と延びます。」日本作業療法士協会事務長の宮井氏からであった。

厚生労働省から社会福祉・保健衛生関係で貢献した人名を宮内庁に送り、そこで招待客を決定する段階にあること。招待客は夫婦で、付添人を必要とする場合には、理由、その人との関係を説明すること。当日の天候やその他の質問は宮内庁の専用電話に掛けること、などが文書で送られて来た。

長い間、足の骨折をそのままにして来たために少しの痛みがあり、短い距離しか歩けない。まして砂利道のゆるい坂道を長時間、移動するには車椅子が必要であった。

SOSを発信した。いつも北大の仕事があると車椅子持参で助けて下さる、教え子の医学部教授の境信哉先生にお願いし、OKを頂いた。

車椅子は酒井医療株式会社代表取締役社長の早川澄儀に依頼したところ、前日に外出用の車椅子とクッションを営業本部長の森川英様がホテルまで届けて下さることと決った。

文書での応答の後、宮内庁から正式の招待状が届



園遊会当日。左から、境信哉先生と筆者夫婦

いた。金色の菊の御紋が入り、宮内庁長官からのものであった。「尊さ」を感じた。服装は、男性はフロックコート、女性には色紋付の着物とあった。私の方は車椅子のために帯が背中を痛めるので洋服にし、式典に合う服装を求めて、教え子の山下協子先生とデパートへ急いだ。

非日常の出来事で、判らないことが次々として出て来た。SOSを東京にいる学習院卒の従弟夫婦に別に発信したところ、「宮内庁の担当の方に何でも尋ねるといいよ。親切に教えてくれるから」と。

それで「車椅子を使用しますが、もし皇族の方がお声掛け下さった時、立つべきでしょうか？ 帽子は脱ぐ必要がありますか？」答えは「天皇・皇后両陛下共に身体の不自由な方には特別にお優しいので立つ必要はありません。寒いので帽子もそのままが良いですよ。」と。その声には親しみが溢っていた。

当日、11月9日に園遊会に参加した。

境先生と良人と私の3人は、時間通りに指定された東門から園遊会場に入った。曇一つなく、天はどこまでも青く遠かった。

招待客には外国の大使も来ておられ、各国の武官がユニフォームで散策していた。中央にはマスコミの人々が



沢山集っていたので、人の少ない出口の方に行くことにした。

まだ他には誰もいない所まで行って、パーベキューのご接待を受けた。肉やチーズは「御料牧場」のもの…とお聞きした。約2,200名の招待客が秋の陽の中で心地よい時を過ごさせて頂いた。

オーストラリアの空軍武官(大佐)と約40分間英語で話した。「今、84歳ですよ」と云ったら、本当に驚いたようであった。

アメリカ留学の時、イギリス人がどこまでもユーモアで他人を笑わせていたことなど楽しい思い出をお話した。

12人くらいの中近東の女性がすぐ横に来たので、英語か日本語で話し掛けてくれるのか期待したが、会話は全く生まれなかった。

皇族のご采場は「君が代」の雅楽の演奏で知らされた。

中心部では皇族のご様子がマスコミに報じられ、遠くにいる招待客は通路の両側に列を作った。

しばらくすると、突然、天皇陛下が4、5m先にお姿をお見せになられた。(車椅子のため私だけは列から後に下がっていたためである。)慌てて深くお辞儀をした。すると真っ直ぐにこちらにお近づきになる……。何を話すべきか?

「本日は天皇陛下の中を、お招き頂き本当に嬉しく、日本人に生まれたことに感謝しております。」

皇后様には、お顔を50cmの所まで近づけて下さり、1対1の世界を創られてお話して頂けた。

「作業療法のあるべき姿、理論を考える時、美智子様のお姿の中にそれを見つかることができます。どうぞ、いついつまでもお元気でいらして下さい。」

これまでに、フルブライト制度の祝典とOT協会国際会議で二度、お話をできた。三度もお声掛けを頂いたことを心から光栄と思っている。

この日、ご参加なさった皇族の方は皆様、車椅子の私に「お声掛け」下さった。本当に有難いことである。

日本人で良かった。コツコツ努力してきた「作業療法士の養成」が、1968年、コロンビア大学卒で米国資格のOTRを持ち、ニューヨーク市立病院に勤務し、ハーレムへも地域医療で訪問治療をした。帰国後、教員・国家試験委員・協会づくり、などをした。1人が協会員18名(1966年)となった。そうし



て現在、有資格者約9万人となり、米国に次ぐ第二のOT国家になるまで成長した。

日本国という地盤がしっかりしている国家であるから、平和で人の生命・人権を大切にする国柄だから、ここまで成長したのである。

赤坂の御苑で、少し冷たいつむじ風が身体に当たる。背空が近くに見えた。血管に、そうして一つの筋肉に、空気が入っていくようであった。身体が浮き、天に近づいていく。

そこには、アメリカで私をアメリカ人以上に愛し育てて下さった恩師がいる。G・フィドラー先生、M・フランシスカス先生、N・スミス先生(実習指導者)、F・モーア先生(フルブライト・オリエンテーション委員長)、その他の応援団員の皆様が、

声の限り、天の方向に向かって叫ぶ。  
"Your job is well done!" と感謝を籠めて。

この時、振り返ると地上では「秋の園遊会」が進行中であった。

